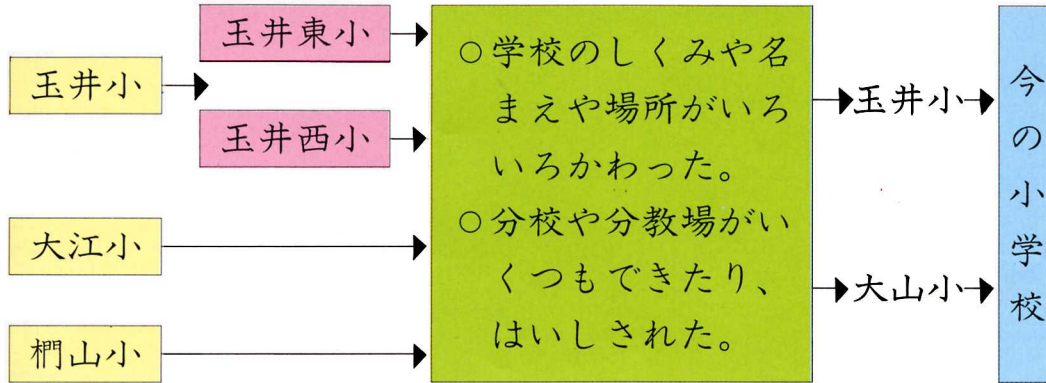


学校のうつりかわり



(むかしの教科書)



(木造校舎の内部)

このころの学校は、お寺や民家を借りていましたが、せまかったので、あちこちに場所がかわりました。また、学校のしくみ(学制)がいろいろとかわったために、名まえや通学の区いきもそのたびにかわりました。大玉村でも、いくつもの分教場や分校がつくられました。大玉村でも、いくつもの分教場や分校がつくられましたが、廃校されました。はじめのうちは、小学校は四年まで(尋常科)でしたが、五、六年の高等科もつくられ、やがて、中学校(五年)、せんもん学校などが作られるようになりました。

今のような、小学校六年、中学校三年、高等学校三年、大学という学校のしくみになったのは一九四七年からです。